



ウルメイワシ (対馬暖流系群)

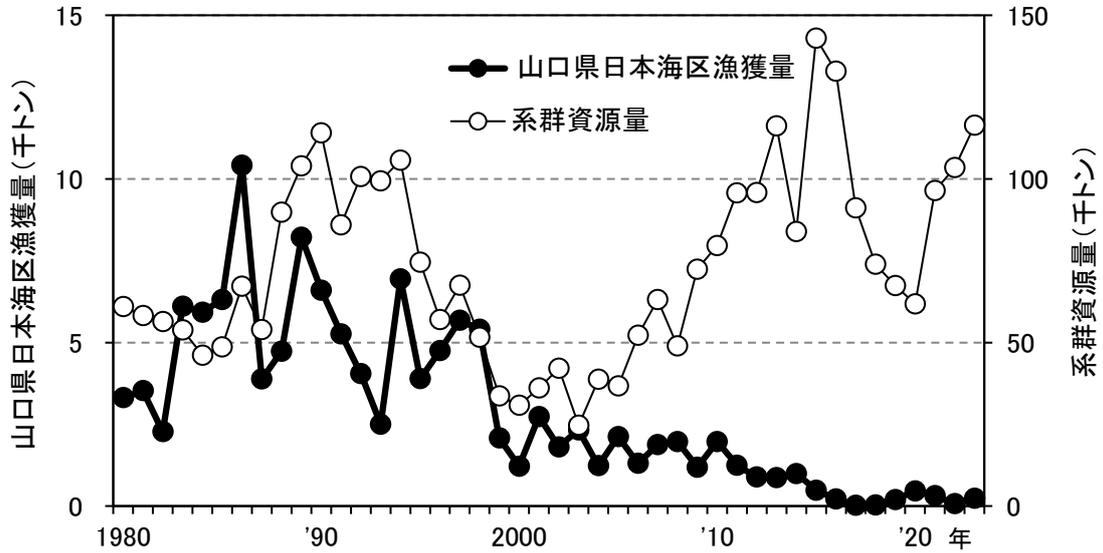


図 山口県日本海区ウルメイワシ漁獲量 (漁業・養殖業生産統計年報) 及び対馬暖流系群ウルメイワシ資源量 ((国研) 水産研究・教育機構 資源評価報告書)の推移

【漁業】ウルメイワシは主に棒受網により秋に小・中羽(当歳魚)が漁獲されるほか、初夏に旋網により大羽(1歳魚以上)が漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、資源量の変動傾向と大きく異なり、1986年の10,418トン进行ピークに、数年周期で増減を繰り返しながら顕著に減少し、2017年には19トンになった。その後はやや増加し、2023年は232トンであった。

【資源状態】資源量は2003年以降増加して2015年には14万トンを超えた。その後減少し2020年には6.2万トンになった。2021年以降は再び増加し、2023年は11.6万トンであった。

2023年の親魚量(SB)は最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SB_{msy}:目標管理基準値)を上回った。また、2023年の漁獲圧(F)はMSYを実現する漁獲圧(F_{msy})を上回った。親魚量の動向は増加と判断された。

2023年漁獲量(万トン)	MSY(万トン)	2023年親魚量(万トン)	目標管理基準値(万トン)	限界管理基準値(万トン)	禁漁水準(万トン)
6.2	3.5	7.4	5.4	1.8	0.2